

的な研究計画を、時間を割いて検討する必要があるのではないかと考えている。特に、この一年間を反省することしか無い私の場合はそうである。自分が目指す博士論文の構想、理論的支柱、仮想敵を考えながら、各論のテーマを設定し、仮説を立て、それを実証するための資料収集・分析、ヒアリングの実施…、当初想定した「1 年間に 2 本」を考えるならば、半年に 1 本がノルマとなる。かつこれらの成果が、所属している学

会で報告できるように、リミットを定められることが理想的なだろう。これらに併せ、学会関係をはじめとする事務仕事をこなしていかなければならないと考えると、やはり「研究は計画的に」である。

一年後、笑っている自分がいるか、暗く落ち込んでいる自分がいるか、確かめて頂ければ幸いである。

(京都大学大学院)

研究活動報告 II

地域経済研究会

2006 年 11 月 18 日 (土)

- 池田清氏 (下関市立大学)
「地域(都市)の創造と伝統」
- 堀富士夫氏 (岐阜経済大学副理事長)
「郷土力を活かす、持続可能な市街地再生」

2007 年 1 月 27 日 (土)

- 手嶋隆行氏 (京都大学公共政策大学院)
「『まちの駅』について」
- 相楽美穂氏 (立命館大学)
「木製品の材料に関わる情報の確認機会喪失とその再生」

2007 年 4 月 7 日 (土)

- 宇都宮千穂氏 (京都大学大学院)
「新居浜市の形成と生活空間」
- 榎田 洋氏 (日本福祉大学)
「雇用保障型世界都市～スウェーデン地域経済の構造転換」
- 横山 隆氏 (八尾市役所)
「八尾市を事例とした企業誘致について」

2007 年 6 月 16 日 (土)

< 午前部 >

- 小山大介氏 (京都大学大学院)
「現代多国籍企業の貿易構造－企業内世界分業体制の構築過程－」

< 午後部 >

- 高田茂弘氏 (毎日新聞社)
「合併を拒否した自治体――三つの事例から」
- 梅原浩次郎氏 (愛知産業大学)
「大都市圏改革と自治体経営戦略－名古屋市を事例に－」
- 名和洋人氏 (京都大学大学院)
「灌漑用水開発と外国人農業労働者
－カリフォルニア州の開墾事業対象地域における事例から－」

2007 年 8 月 4 日 (土)

【地域経済研究会シンポジウム】

- 水島和哉 (京都大学大学院): 「景観変遷と消費分析にみる都市形成史」
- 三輪 仁 (京都大学大学院): 「産業分析の地域経済学的アプローチ」
- 宇都宮千穂 (京都大学大学院): 「都市形成と生活空間」
- 池島祥文 (京都大学大学院): 「都市・農村間関係の再検討」